

平成27年度事業計画書

東京都は、昨年12月、世界に誇る都市型総合港湾・東京港の創造を目指した「第8次改訂港湾計画」を策定し、物流のみならず観光、環境、オリンピック・パラリンピック、安心・安全という5つの視点から施策が体系化された。

この改訂計画の内容・方向は、貨物量の増加や船舶の大型化など東京港を取り巻く環境の変化に適切に対応するための指針として、昨年1月に東京港振興促進協議会が策定した「第4次アクションプラン」とも軌を一にするものである。

当協会としては、本年度も引き続き、「物流機能の強化」「安全の確保・危機管理」「環境に配慮したみなとづくり」「みなとの賑わいの創出」の4つの柱からなる「第4次アクションプラン」の実現に向けた取り組みを進めていく。

また、競技会場の多くが東京港臨海部に予定されている2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催まであと5年と近づいているほか、臨海副都心での新客船ふ頭及びターミナルの新設など臨海部の開発の促進、昨年に続く10万総トンを超える大型クルーズ客船の寄港など、東京港への関心がより一層高まっている。

これらは、東京港の活性化に大きく寄与し、東京港の振興と発展の好機となることから、当協会としては、東京港を取り巻く今後の動向に注視し、情報収集をはじめとしての的確に対応していく。

当協会の主要事業である東京港のPR活動については、見学会の実施、各種資料の発行、東京みなと館の運営などの事業を展開するとともに、昨年度に引き続き、国外への使節団の派遣や客船誘致などの船舶誘致活動も積極的に推進するほか、京浜三港の広域連携に向けた取り組みに参画し、京浜港の利用促進に努める。

また、今後の当協会の事業の実施にあたり、東京港を巡る環境の変化に対応したより効果的な東京港の振興に寄与する活動に重点的に取り組むとともに、会員向け事業の充実を図っていく。

さらに、財政基盤確立のため、駐車場の運営などの収益事業を引き続き実施する。

1. 港湾振興事業

(1) 東京港振興促進協議会

昨年1月に策定した「第4次アクションプラン」に示された取り組み事項の実現に向け、中央防波堤外側コンテナターミナル整備や大井・青海両コンテナふ頭再編などの港湾物流機能強化、臨港道路南北線の整備促進などの交通インフラの充実、内航船や鉄道との連携などを活用した国内ハブ機能強化、大型クルーズ客船寄港に対応した新客船ふ頭整備など、港湾管理者などと連携し、官民一体となって東京港の更なる国際競争力のある使いやすい港づくりに取り組んでいくとともに、協議会の事務局として部会、幹事会での円滑な進行管理に努める。

(2) 船舶貨物誘致活動の推進

① 国外における活動

官民一体となった使節団を国外へ派遣し、現地の最新の動向などの情報収集や荷主・船社などと意見交換を行うなど、東京港の利用促進に向けたポートセールス活動を展開する。

② 国内における活動

荷主・船社などを対象として、懇談会や情報交換会を開催するなど東京港並びに京浜港の利用促進に努める。

(3) 客船誘致活動の推進

昨年1月に策定した、今後のクルーズ客船誘致施策の基本的指針である「東京クルーズビジョン」に示された目標の実現に向け、港湾管理者などと連携し、港の賑わい創出や活性化に繋がるように東京の観光資源を活用した外国客船などの寄港増に取り組む。

また、客船船社などへの訪問やクルーズ客船の寄港促進に向けた東京港の取り組みなどをPRするセミナーなどの開催、東京都港湾局、東京港埠頭株式会社及び当協会により立ち上げた東京港クルーズ客船プロジェクトチームの活動への参画など、積極的な客船誘致活動を展開する。

なお、昨年度に引き続き、「全国クルーズ客船誘致連絡会」などの場にも参加して、積極的に客船誘致のための情報収集を行っていく。

(4) 国際交流事業の実施

東京港と姉妹港・友好港の関係にある港及びその他の港との交流を図るなど、港湾管理者と一体になって交流事業の推進に努める。

(5) 都民を対象とした東京港などの見学会の実施

① 社会科見学船による東京港案内

昨年度に続き、東京都との共同事業として、船の提供は都が行い、募集・案内業務は当協会の自主事業として実施する。都内の小学4年生から6年生及び中学生を対象に、海上バスを利用して東京港の役割や都民生活とのかかわりなどを説明し、東京港への理解を深める。

② 新東京丸による東京港見学会

昨年度に続き、公募により参加者を募集し、東京港及び東京みなと館の見学を行う見学会を実施し、広く東京港のPRを行う。

③ 東京港夜景観賞ツアー

昨年度に続き、公募により参加者を募集し、海上バスと東京みなと館から東京港の夜景を観賞する「東京港夜景観賞ツアー」を実施し、東京港のより充実したPR活動

に努める。

(6) 東京港及び臨海副都心の観光案内事業の実施

日の出ふ頭海上バスならびにレストランシップ発着所の船客待合所内に設置した観光案内パンフレットスタンドや掲示板により、各種博物館等の施設案内や港湾局事業をはじめとする東京都のお知らせやイベント情報を提供するほか、外国語のパンフレットを充実させて東京港を訪れた国内外の観光客に対して東京港及び臨海副都心のPRを行い、東京港の観光スポットとしての振興発展を図る。

2. 情報提供等事業

(1) 会誌「東京港」及び東京港関係資料の発行・配布・販売

最新の情報を提供するため、会誌「東京港」「東京港港湾統計月報」「東京港ハンドブック」「東京港便覧」などの発行・配布・販売を行う。

なお、会誌「東京港」については、より読みやすい冊子となるよう誌面構成やデザインなどの見直しを行っていく。

(2) 会員を対象とした東京港の見学会・研修会などの開催

① 会員向け東京港見学会・研修会

新東京丸やバスなどを利用し、東京港の現状を直接見ていただく機会を提供するとともに、会員企業・団体の新規採用者研修などの業務研修として活用していただくため、東京港の見学会・研修会を実施する。

② 東京港港湾施設等見学会

東京港内の新規施設や普段間近に見ることのできない施設などをコースに取り入れた見学会を実施する。

③ 東京港夜景見学会

東京港とその臨海部では、多くの競技会場が予定されている2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催や臨海副都心での新客船ふ頭及びターミナルの新設など、その魅力を高め、賑わいを創出する動きが活発となっており、「東京港第8次改訂港湾計画」や「第4次アクションプラン」にもこれらへの取り組みが示されている。

このような中、新たに会員向け事業として、東京港の魅力の一つであり、人気が高い東京港の夜景を海上バスと東京みなと館から観賞し、国際物流拠点としてだけではない、観光資源としての東京港の魅力を知っていただく見学会を実施する。

(3) 講演会などの開催

東京港に関わる最新のトピックスなどについての講演会や講習会などを開催する。

3. 東京みなと祭事業

東京みなと祭協議会の事務局として、5月20日（火）の開港記念日に東京港港湾功労者表彰式などの各種行事を実施するほか、東京港開港記念祝賀会実行委員会事務局として開港記念祝賀会を実施する。

本年で第67回を迎える東京みなと祭は都民に「みなと」に係る知識や理解を深めていただく行事として定着しており、本年度は5月23日（土）、24日（日）の両日、晴海会場を中心に実施する。

「東京ポートバザール」や「珍しい船の一般公開」「見て！ふれて！東京港（東京港PRブース）」などの恒例行事に加え、新東京丸やレストランシップ、屋形船を利用した体験クルーズや東京みなと館の出張ブース、東京港内のビューポイントをバスで巡るツアーなど、東京港のPRを一層図る多彩な行事を実施する。

このほか、共催行事としてドラゴンボート大会、協賛行事として水の消防ページェントなどを実施する。

4. 広報関連受託事業

東京都から委託を受け、次の事業を東京港PR活動として行う。

- ① 初入港船、客船、帆船などに対する歓送迎行事
- ② 新東京丸による東京港案内

5. 助成事業

公益財団法人日本財団の助成事業として、小中高生及びPTAなどの団体を対象に船からの東京港見学と東京みなと館の見学を合わせた海事施設等見学研修事業を30回実施し、海事思想の普及に努める。

6. 東京みなと館事業

本年度も引き続き各種展示物の改修を適宜行うとともに、資料・図書・写真などの収集整理に努め、集客を図るための企画展示や関連イベントを展開する。また、東京みなと祭会場での映像や写真等の展示に取り組むなど積極的なPR活動を行う。

全国のみなとの博物館関係者及び港湾管理者などを構成員とする「みなとの博物館ネットワークフォーラム」などを活用しPRの強化に努め、来館者の増加を図っていく。

7. 収益事業

東京港ハンドブックや東京港便覧などの東京港関係資料の販売、駐車場の運営などの営業活動を行う。

8. 会勢の拡充

引き続き東京港の振興を図るため、会勢の拡充・強化に努める。